

Title	福沢書翰の新資料(明治二十三年一月十九日付,山口広江宛)
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1967
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.1 (1967. 7) ,p.112- 112
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19670700-0112

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福沢書翰の新資料（明治二十三年一月十九日付、）
（山口広江宛）

去る（昭和四十一年）五月十七日、同窓の友人である誠文堂新光社社長小川誠一郎氏から、福沢書翰一通の写真をおくられた。決定版『福沢諭吉全集』にも未収の新資料なので、左にその全文を紹介しよう。

なお、この書翰には日付がなく、宛名も單に「山口様」とあるだけであるが、右の全集の編纂者富田正文氏によると、これは同全集第十八巻三五七ページ所収の書翰第一一三七号に添えられた文書であろうとのことで、したがつてそうすれば、日付は明治二十三年一月十九日付、宛名は山口広江ということになるわけである。また、文中の「土岐謙之助」は福沢夫人錦の実弟で、この書翰と同様、やはりその訃を報じた同日付の福沢捨次郎宛のものが、書翰第一一三五号として全集に載つている。

それから、「土岐八郎」は不詳であるが、いずれ謙之助の弟か近い縁者と推定され、「隠居」は福沢夫人や土岐謙之助の実母であつて、このころは福沢家に引き取られていたのであつた。

山 口 様

（会田 倉吉）

御祝儀終りて土岐謙之助（今日ハ贊洋と云ふ）去冬より少し不快之処一月ニ入り流行之腸チフスニ変し色々手当致候得共皆薬効なく遂ニ去ル十六日死去致候子供ハ男子三人惣

領ハ十五歳次ハ十三と十一御承知之通り兼而六ヶ敷人物ニ而年ハ既ニ四十一歳ニ候得共頓ト取留たる事なく近年ハ芝浜之辺ニ住居舟とか網とかニ而渡世之真似を致居候事ニ有之候右之凶事土岐八郎方ニ為知遣度候得共八郎も數年音信不通何處ニ住居致候哉夫れさへ不相知別紙ハ隠居より為知之手紙誠ニ恐入候得共本人之宿處相知候ハゝ御序之節御届方奉願候

謙之助事も存生中ハ始終人ニ心配為致候而已ニ而何之役にも立たず候得共人を殺したる事もなく傷けたることもなく又窃盜などの沙汰も聞かず唯いくじなく金を遣ひつまらぬ事ニ己が体面を損するのみ扱その遣ひし金とて今日と為りて計算すれハ生涯中ニ何程之事も無之徒二人ニいやがられて死したるのみ實に憐む可き者ニ御座候既ニ死すれハ一切無罪この上ハ老母之心を慰メ跡ニ残りし子供の世話を致し遣す積ニ御座候

右凶事為御知ニ兼而願用まで申上度如此御座候 以上

諭 吉

又 白